

学校だより

学校教育目標

「豊かな心を持ち、相手を思いやり、ともに「生きる力」を身に付ける児童の育成」



# こうとく



2021（令和3）年度 第2号

2021（令和3）年4月16日

北九州市立広徳小学校

校長 松山 修司



## ご入学おめでとうございます ぴかぴかの新1年生61名 元気に入学しました！



大きなランドセルを背負い、おうちの方と一緒に広徳小学校の門をくぐって、ぴかぴかの1年生が登校してきました。4月12日晴天。最高の入学式日和でした。

入学式では、在校生を代表して6年生児童も参加し、受付や案内等の仕事をしたり、式の中で学校紹介をしたりと活躍しました。立派な態度でした。ありがとう。

地域の皆様、保護者の皆様、新1年生の見守りよろしくお願いいたします。

新1年生の皆さん、入学おめでとう！ これからも元気に登校してくださいね。

広徳小学校の入学式の様子がNHKのニュースで紹介されました。

お見逃しの方は、広徳小学校のホームページからNHKニュースの動画を見ることができますのでご覧ください。※NHKニュースWebアドレス<https://www3.nhk.or.jp/fukuoka-news/20210412/5010011490.html>

NHK NEWS WEB 4月12日

福岡 NEWS WEB

### 北九州市の市立小学校 感染対策をとり一斉に入学式



北九州市では12日、新型コロナウイルスの感染対策を取ったうえで128校あるすべての市立小学校で一斉に入学式が行われ、新1年生が学校生活をスタートさせました。

このうち小倉南区の広徳小学校では、時間を例年の半分の30分程度に短縮し、参加者を減らすなどの感染対策を取ったうえで入学式が開かれ、新1年生61人が式に臨みました。

式では、松山修司校長が「友達や周りの人に心が温かくなる言葉をたくさん言えるようになってください。また、自分から元気に挨拶ができるようにしましょう。あしたから元気に学校に来るのを楽しみにしています」と励ましました。このあと、6年生全員がステージに並んで授業や給食など学校生活について紹介したあと、校歌を合唱し、新入生を歓迎しました。

新1年生の女子児童は「楽しみです。鉄棒をがんばりたい」と話していました。また男子児童は「実験をしてみたい」と話していました。



# 令和3年度教職員等紹介

本年度は、1年生から6年生まで全学年2クラスになりました。  
 全校15学級（特支学級3） 児童数366名 関係職員43名でスタート  
 です。子どもたちにかかわる職員を紹介します。



校長	松山 修司
教頭	中村 和弘
教務主任	河村 晶子
たいよう1組	坪根 雅子
たいよう2組	中村 衣里
あおぞら	中條 健二
特支学級補助	北崎 友佳理
1年1組	土中 真里子
1年2組	村田 愛莉
2年1組	佐々木 珠美
2年2組	柳井 良平
3年1組	加茂 陽子
3年2組	稲葉 亮介
4年1組	宮部 雅美

4年2組	蔵前 亮平
5年1組	桑園 仁美
5年2組	峯脇 正義
6年1組	岩淵 達朗
6年2組	花手 恵美
児童支援	溝井 正俊
児童支援	木本 祥太
少人数指導	長野 和則
少人数指導	藤井 正明
理科専科	西小野 佳奈
通級指導	廣谷 麻美
通級指導	前田 史夏
通級指導	副田 亜弥子
養護教諭	田中 美保

栄養職員	藤野 裕子
学校事務	松丸 哲也
事務補助	玉井 聖子
校務員	田中 秀
スクールサポートスタッフ	井上 静香
学習指導補助	久保 諭樹
学力向上推進リーダー	溝口 忠幸
新採指導教員	柳井 貴義
A L T	チオマ ンソエド
日本人ALT	石村 麻衣
図書館職員	松本 久美
スクールカウンセラー	森寺 亜伊子
ICT サポーター	堀 あゆみ
S S W	西牟田麻衣／菅井貴太郎



## 校長の独り言 子育てのたね



『「ほめ言葉」で子どもはキラキラ、生き生き！する』の巻

今回は、おススメの本を紹介します。「子どもが輝くいい言葉、いい話し方」という本です。子どもはどんな時でも、自分を励まし、自信をもたせてくれる言葉を欲しています。親や周囲の大人が、子どもを認め、励まし、勇気づける言葉を掛けていけば、子どもは安心と自信を得て、輝いて伸びていきます。人を信頼する気持ちも育ちます。教育現場に長年接してきた心理学者・多湖先生が、子どもを輝かせる112の「いい言葉」を紹介しています。大人が子どもへ、普段いつでも掛けられる具体的な言葉が満載の一冊です。※本文の一部を紹介します。



子供を輝かせてくれるのは、お母さんやお父さんの言葉です。それも、ほんの短い一言の「いい言葉」です。「言葉くらいで『今どきの子供』が輝くかしら？」そんな疑問をもつお母さんやお父さんがいるでしょうが、私はそこに大きな誤解があると思っています。実は子供が一番欲しがっているのは、プレゼントやご褒美なんかじゃなくて（これが誤解）、いつでも、どんなときでも、子供を励ましてくれたり自信をもたせてくれたりする言葉なのです。なぜなら、子供は少しのことで不安になったり、自信を失いかけてたりするからです。毎日の生活、遊びや勉強や友達との付き合いの中に、小さなつまづきや失敗がたくさん用意されているからです。そんなとき、「お母さんも失敗ばかりしていたなあ」という言葉をかけてもらおうと、子供たちはたちまち元気を取り戻します。そう思ったとたん、子供は自分の失敗を明るい気持ちで受け止めるようになります。ほんの短い一言で子供の心が輝くのですから、それはまさに「いい言葉」と言えます。大きなプレゼントやご褒美は、確かにとても効果的です。でもそれはいつときの喜びです。それより子供にとって嬉しいのは、いつでもどこでもお母さんやお父さんが惜しみなく与えてくれる「言葉のプレゼント」ではないでしょうか。